

障害者と共に

第 97 号

社会福祉法人
キリスト者奉仕会
大牟田市新藤立町3丁目5番地15
大牟田 恵 愛 園
恵愛ワークセンター
ハ - ツ
た ん ぼ
つ く し ぼ



いきいきと働ける 職場をめざして

キリスト者奉仕会 理事長 叶 義文

世界的な新型コロナウイルス感染症の中、緊急事態宣言とともに始まった新年度、多くの方々が悲しみ・不安や心配の中で新年度を迎えられたことと思います。感染された方やその家族、医療・福祉関係の方々、また仕事がなくなったり、



2020年2月15日 法人職員研修会

出来なくなっている方々、学校や保育園等が休みになり困っている方々等、多くの方々が大変な状況におかれています。

障害者就労施設等においても職種にもよりますが、深刻な影響が出ています。例えば、仕事を出してくれている親会社や休業となったり、外出自粛等によりレストラン、ホテル・旅館等の売上が減少したり、パン（移動販売）の売上が減少したり、ホーニング等の仕事の激減等々です。就労継続支援A型事業所への影響も深刻ですが、B型事業所の場合は、雇用ではないため、休業しても工賃に対する補償はないという課題もあります。障がいのある人たちの生活を守るため、法人としても工賃補償には取り組むものの、本来はきちんと実態を把握して、仕組みとして対応していくことが求められます。

さて、今回は、我が法人で掲げている四つ目の理念について説明致します。

わたしたちは「障害のある人たちの基本的人権を尊重すること」を第一とし、そこで働く者も含めて共に生き生きとできる場であることを目指します。

法人施設が充実した歩みが続けていくためには、職員が「いきいきと働ける場」であることが重要であることは言うまでもありません。それでは、働く者がいきいきと働ける場を作っていくためには、何が必要でしょうか。そのためには、なにより職員同士の信頼関係が必要です。職員同士が信頼し合えていれば、働きやすい職場になるでしょうし、ギスギスしていたり、いがみ合ったり、不平不満が溜まっていれば、働きにくい職場になります。そのような職場では皆がいやな思いをし、傷つき、悲しみ、最後にはつぶれていたり、職場を辞めていったりすることにもつながります。

私たちは、つい他者の足りない部分に目が行き、責めてしまいがちになります。自分も弱さを持つていて赦（ゆる）まれている者として、他者の弱さを認め、他者を認めていくことが必要です。言い換えれば、他者のいいところをきちんと見ると

いうことでもありません。それは、決して納得できないことをうやむやにするということではなく、誠実に向き合い、語り合うということです。

また、「いきいきと働ける場」であるために最も重要なことは、めざす理念（目標）が共有されているかどうかということです。この第四の理念でいう「基本的人権を尊重すること」を第一とするという部分ですが、まさに、「どんなに重い障がいがある方が、一人のかけがえのない存在として、対等に尊重されること」。このことが皆の共通の理念としてあるかどうかです。このことを基本に、互いに認め合い、ごまかさず、語り合い、信頼し合える関係を作っていくことこそがこの第四の理念です。

最後に、このことは誰から一方的に提供してもらえないものではないと思います。重要なことは、「いきいきと働ける場」を作るために、一人一人が自分自身の課題として考え、行動することです。まさに主体的な行動です。そのことにより共通の目標に向かい、皆がいきいきと働くことができる場につながっていくのだと思います。

「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。」

（ヨハネ 一五：一二）

青年ミッショントリップ in大牟田

二〇一九年十一月二日から四日までの三日間、大牟田で日本バプテスト連盟宣教部主催の「青年ミッショントリップ」が開催されました。これは、青年が教会を訪問しながら、その教会の置かれている地域や教会自身が出会っている課題を共有し、共に考える旅です。これまで参加した青年達は、群馬、高松の豊島、京都の東九条へ旅し、産業廃棄物問題、フィリピン人コミュニティや在日コリアン等の多文化共生について学ぶ機会が与えられています。

青年ミッショントリップ in 大牟田のテーマは「共に生きる出会いを求めて」としました。三日間の旅でどんな出会いがあったのでしょうか。今回参加した方の感想を数名、ご紹介します。

大竹 聖子さん

(日本バプテスト京都教会)

大牟田恵愛園で働いている方、またそこで生活している方との出会いがありました。その中で、「相手にも自分にとっても合理的配慮が必要」という言葉が心に残りました。例えば、「車いすの人がエレベーター

ターに乗ろうとしていたらボタンを押す」や「耳の聞こえない方への手話通訳」などがあげられるとお話をいただき、自分たちが社会の中で障害のある方々への合理的配慮ができていくのかなと感じました。

菅原 めぐみさん

(横浜ニューライフバプテスト教会)

在日コリアンの語り部である、裴東録さんのお話を聞いてから世界遺産の三池炭鉱を巡りました。産業革命や世界遺産登録という華々しい部分に隠されてしまった囚人や在日外国人の非人道的な炭鉱労働の歴史を学ぶことができました。これらは決して過去のことではなく、今も日本で似たようなことが起きていることを心に留めなければいけないと感じます。

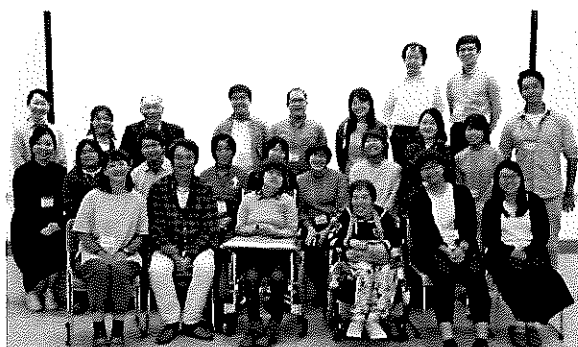
大里 奏さん

(日本バプテスト連盟鳥栖キリスト教会)

日本ではいまだに生産性が求められ、優秀なものだけが残っていく優生思想が教育にまだまだに根付いていること、また少なからず自分にもそういった考えがあることを改めて実感しました。その人の肩書ではなくその人自身に出会っていくこと、互いに愛し合い、共に生きることがいかに難しいかを痛感させられます。無関心でいることで知り得ない事実があるということ、私たちが歴史の中でどういったことを行ってきたのか、またこれからどう生きていくのか関心を持って物事をとらえていく大切さを学びました。

同世代の青年たちが集い、語り合い、共に考える場はとても貴重で、

法人としても素晴らしい時間を共有することが出来ました。これからも多くの人たちが出会い、学び、交わりあえる場としてキリスト者奉仕会を用いて下さると幸いです。



大牟田MTタイムテーブル

11月2日(土)	
11:40	集合(場所:JR・西鉄大牟田駅)
12:15	開会礼拝 オリエンテーション(場所:大牟田恵愛園)
13:00	大牟田恵愛園での出会い 見学・懇談
18:00	夕食 お風呂 分かち合い 就寝(宿泊:大牟田恵愛園)
11月3日(日)	
8:00	朝食 移動
10:30	大牟田フレンドシップ教会 教会学校
11:00	主日礼拝
12:00	昼食 教会員との交わり
14:00	大牟田フィールドワーク 大牟田炭鉱史跡探訪(大牟田市同和研究協議会)
18:00	夕食 お風呂 分かち合い・交流会 就寝(宿泊:大牟田恵愛園)
11月4日(月・祝)	
8:00	朝食 片付け
9:30	振り返りの時間
11:00	閉会礼拝 昼食
13:00	解散(場所:JR・西鉄大牟田駅)

つくしんぼ小浜Ⅲ 短期入所事業 スタートしました!!

つくしんぼ 富安 妙子

二〇一九年十二月中旬よりつくしんぼ小浜Ⅲ短期入所室増築工事が始まり、二〇二〇年三月中旬に無事工事が終了し、四月一日より小浜Ⅲ短期入所事業併設型(定員一名)がスタートしました。新型コロナウイルスの感染拡大防止の為に、現在は緊急時のみ受け入れを行って行く予定ですが、今後、障がいや重度・高齢化する地域で生活する障がいのある方々の緊急一時的な宿泊の場を提供し、施設等からの地域移行の促進、地域生活の継続等の地域生活支援の中核的な役割を担っていきけるよう事業に取り組んでいきたいと思えます。

短期入所(ショートステイ)のニーズは、近頃増えてきており、自宅で介護を行っての方が病気などの理由により介護を行うことができなくなった場合に、利用されることもあり、介護者にとってのレスパイトサービス(休息)、将来の地域生活に向けて家族と離れて過ごされる等利用される目的も様々です。自宅での生活と環境も違

い、慣れられるまでに時間を要する方もおられると思いますが、安心して過ごしてもらえよう、スタッフ一同お待ちしております。利用希望、見学希望の方はつくしんぼまでご連絡いただければご案内致します。



つくしんぼ小浜Ⅲ短期入所 外観

【居室設備一覧表】

- ・トイレ
- ・冷暖房
- ・ベッド(リクライニング)
- ・ミニキッチン
- ・テレビ
- ・冷蔵庫
- ・収納

二〇一九年度 法人職員研修会の報告

法人研修委員長 沖中久美子

毎年、当法人では階層別研修を行っており、昨年度も新人研修や常勤職員研修、責任者研修等行いました。その中で二〇二〇年二月十五日(土)に行った全職員を対象とした法人職員研修会についてご報告をさせていただきます。

今回の研修は様々な職種の人職員が集まり「共に生きる出会いを求めて」というテーマで法人理念に基づいた研修を行っています。まず初めに、聴覚障がいの当事者でもある大牟田聴覚障害者福祉協会の古賀智宏さんと大牟田手話の会ありあけの杉野有美子さんをお招きして講演会を行いました。古賀さんからは「当事者としての想いや伝えたいこと」を講演頂き、生い立ちから、現在に至るまでの当事者としての活動

について等、支援者である我々への重要なメッセージを頂きました。また杉野さんからは、「手話に取り組みたい、聴覚障がいのある方との関わりを通じて」というテーマで、手話を学ぶことになったきっかけや、当事者の方との出会いで気づかされた事など、様々な貴重な話を聞くことが出来ました。お二人のご講演を聞く中

で、法人の理念でもある当事者と出会うことを基本とし、その方の生の声に耳を傾け、そこから学ぶことを大切にすると、この理念がここに繋がっているという事を改めて感じさせられました。

また、今回の研修では講演の他に法人内の各事業所より「障がいのある人への支援の充実に向けて今取り組んでいる事」を実践報告として行いました。それぞれの実践を通して、障がいのある方への向き合い方や大切にしている事、取り組み等を学び、日々の支援へつなげられる良い機会だったと思います。

今後も職員一人一人が利用者の方との関わりの中で多くの事に気づき、相手が何を求めているのかなど興味をもって関われるよう、またそこから利用者の方がいきいきと暮らしていける支援に繋がるような研修の場としていきたいと考えています。



クリスマス祝会

法人行事委員長 富安 妙子

十二月二十日(金)法人利用者、職員をはじめご家族、近隣の教会の皆様と共にクリスマス祝会を行いました。

第一部クリスマス礼拝では、「クランクン」というテーマで久留米キリスト教会の踊真一郎牧師にメッセージをいただき、一緒にクリスマスをお祝いすることができました。

第二部茶話会では、福岡市近郊の高齢者施設等でもボランティア活動をされている「ニコニコ」さんによる歌と演奏を楽しみました。クリスマス会に参加しているみんなが口ずさんだり、身体を動かしたりでき、みんなが知っている曲ばかりでした。会場にはサンタクロース、トナカイも来てくれ、プレゼントをもたらした利用者の方は大喜びでした。最後に例年楽しみにしているスライドショーの時間です。自分が仕事をしている写真、旅行の宴会で飲んでいる写真等法人各事業所の一年間を振り返りました。

「私、写っているかな？」と自分をさがしておられる利用者の方や「また、来年のクリスマス祝会が楽しみです。」と言って帰って行かれる利

用者の方もおられました。これからも利用者のみなさんから楽しみにされる法人行事を企画していきたいと思えます。



キリスト者奉仕会 (2020年度行事予定)

10月17日(土)	恵愛まつり
12月18日(金)	クリスマス祝会

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、予定を変更する場合があります。

大牟田恵愛園

二〇二〇年度の各事業の取り組みについて

なないろ

責任者 北岡 哲

「みんなちがってみんないい」と言われた方がいますが、なないろは、本来に様々です。お風呂・食事・介護・楽しみ等「なないろ」に來られる理由は様々です。年齢は、二十代〜七十代と幅広く、障がいの種別も様々、住まい、家族と同居、一人暮らしの方と様々です。

「なないろ」では、チャレンジをテーマに取り組みをしようと思っています。

「やったことないこともやってみよう。あきらめていたことを思い出してみよう。これから見つめていこう」といった、たいそうなテーマを上げます。ひとりひとりの声や気持ちをなないろの「個別の活動」として取り組みたいと思つたからです。

七十代のAさん
「字は書けるようになったか」

就学免除によって、行きたくても学校にいけない状況で過ごされてきました。今では、障害者権利条約ができて、障がいの捉え方が、社会の環境や仕組みが作りだしているといった「社会モデル」へと変わり、ひとりひとりに必要な配慮を行う事が義務となり、不十分なから学校での取り組みも見聞きします。学びたくても学べなかった思いや、馬鹿にされた悔しさなど、語られる事があり、Aさんの「字は書けるようになったか」には、失った時代を取り戻す意味があるように思います。振り返ってみると、Aさんとの付き合いは十数年になります。身体的な障がいの重さや、年齢であきらめていたのは私たちの方かもしれないと思えてきました。

「困難さや背景を理解しつつ、取り組みたいことを一緒に考える」こんなスタンスを大切にしたいと思えます。二〇二〇年の二月に「六十五歳でなにが変わる？相談会」を行いました。相談役にハーツ(相談支援事業所)の古賀所長を招き、制度や大牟田市や近隣の現状について説明、質問に答えてもらいました。六十五歳以上になることで、従来の障害者福祉サービスを受けられなくなる「六十五歳の壁」という問題があります。



自宅で生活されている方は深刻です。通いなれた施設などが利用できなくなったり、外出などが制限されたりする状態があるからです。「六十歳になったらここに来れんか？」不安の声が集まり開催されました。なないろの活動の中では実現や、解決できるのは少ないのかもしれないが、ひとりひとりの様々な生き方の背景を共感しながら、これから一緒に探したり、支えあえる関係を作りたと思います。

ひとりひとり、主体的に取り組むには、個別の活動の充実が必要だと思います。どんなに重度の方でも信頼し合える関係をもとに、なないろの個別の活動に取り組んで行きたい。そういう場になりたいと思います。

スマイル

責任者 奥野 陽子

昔は職人のように作業をされて、美味しいものを食べたり飲んだりしながら話し込んでいた方々も重度化・高齢化に伴い、入退院を繰り返して、笑顔が消え、気力がなくなり居室にこもりがちになってしまった利用者の方々も少なくありません。「スマイル」は施設入所の方々の健康維持を大切にしながら日中の活動に参加し昼間の時間帯にいきいきと活動ができるよう支援を行っています。

活動内容はゆつくりストレッチ、発声練習、嚙下体操、季節の歌や壁飾り作りなどグループで行う活動や個別に取り組んでいる活動(自分の名前を漢字で書きたい、文字が書けるようになりたいと文字を練習されている方、編み物、リハビリなど)「ティータイム」は自ら飲むことができないう方(身体的、意識的)にとつて大切な水分補給。「お散歩」はお日様にあたって外の空気を吸いながらの歩行トレーニング。

かたい表現ではなくやわらかに感じる言葉を用いながら、心の言葉、思いを引き出し、喜びや生きがいにつながり、一人ひとりが生きていることを大切に感じられるよう支援を行っています。

なないろ作業

責任者 平島 勇貴

恵愛園が創立し、三十六年が経ち、入所されている利用者の方々も、歳を重ねてこられ、今まで出来ていた事や思ったことが満足に出来なくなつた方々もおられます。しかし、生活介護事業に所属する利用者の方の中には「まだまだ働きたい」「働くことが生き甲斐だ」と思われている方々も少なくはありません。

新設立の生活介護事業(作業では「毎日でなくとも、時間が短くても、仕事をした」という思いがある方の「働く」を支援する」という目的の中で、毎日様々な利用者の方と共に

に仕事をしています。現在の作業は、おしほりたみとタオルたたみを主に行っています。今はシュレッダーを使用し、機密文書破棄業務の準備を進めている段階です。

現在はその二点の作業のみですが、将来的には様々な仕事の中から、利用者本人が自分にあつた業務、自分のペースで出来る業務を自分で選択し、行っていければ：と考えています。

利用者の方と向き合っていく中で、その方のニーズを引き出しつつ、また、モチベーションを高く保ちながら仕事が出来る環境を、職員、利用者と共に作り上げていきたいと思っています。

大牟田恵愛園 (2020年度行事予定)

6月	未定	防災訓練(地震想定)
	9日	懇親会(延期)
7月	未定	利用者・職員健康診断(夜勤者)
	4日	入所日帰り旅行(延期)
	14日	通所日帰り旅行(延期)
8月	30日	納涼会(延期)
	—	BBQ(なないろ、なないろ作業)
9月	11日	大掃除
	10~11日	一泊旅行(入所)
10月	15日	なないろ社会参加
	26~27日	一泊旅行(作業)
11月	17日	恵愛まつり
	24日	サンアピまつり
12月	未定	防災訓練(火災想定 昼間)
	21日	日帰り旅行(作業)
	—	レクリエーション(スマイル、なないろ)
1月	26~27日	一泊旅行(通所)
	10日	レクリエーション(なないろ作業)
	18日	クリスマス祝会
2月	17,19日	大掃除・忘年会
	—	年末ショッピング
	1日	新年初顔合わせ会
	4日~	年始ショッピング
3月	7日	新年会(自治会共催)
	未定	健康診断(利用者・職員)
	16日	作業新年会
3月	9日	お楽しみメニュー
	未定	防災訓練(夜間想定)
3月	27日	利用者家族説明会
	30日	なないろ社会参加

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、予定を変更する場合があります。

恵愛ワークセンター

就労事業の現状

委託部門責任者 城野 信介

今年度四月から障害者就労・自立支援センターたんぼぼより恵愛ワークセンター(以下、ワーク)への異動となり一ヶ月が経過しました。ワークで初めて働くにあたって自分自身が知っている情報は「タオルを作っている」「パンを作っている」「施設外就労(企業内での作業)に行っている」という大まかな部分だけでしたが、実際に働くとき色々と見えてくるものがありました。

ワークでは就労継続支援事業A型(タオル部門、パン部門、清掃部門)と就労継続支援事業B型(タオル部門、施設外就労部門、パン部門)の事業をおこなっています。その中でタオル部門と施設外就労部門は併せて「委託部門」として作業をおこなっています。

タオル部門においては、毎日一万二千枚のタオルの生産を目標としています。しかし、コロナウイルスの影響にて、材料の仕入れ枚数が若



干減少しており、現在は一万枚の生産枚数に留まっています。材料の仕入れが減少しているものの以前とあまり変わらない枚数を供給していただいている企業様へは感謝しております。今後、生産枚数が一万二千枚に戻った時には、今より忙しくなると思いますが、職員と利用者が一丸となり、協力し合って目標達成をしていけたらいいなと思っています。

施設外就労部門では、現在二つの企業の中で、作業をおこなっています。施設外就労へは利用者六名(最

大六名)、職員一名の体制で訪問し作業をおこなっています。企業様の中で作業をおこなうので、ワーク内とは違う環境、異なる作業、守らなければならぬルール等があります。施設の中だけの作業では得られないものが、施設外就労では経験出来るため、参加される利用者の成長の場にもなっていると思います。

パン部門(らそら)では、訪問販売を中心に事業をおこなっています。現在はコロナウイルスの影響もあり、訪問販売がおこなえる場所が減少している状況です。訪問販売が出来ないと、必然的に売り上げも低下してしまいます。しかし、このような状況だからこそ出来ることがあります。訪問先が限られている為、パンの製造数の調整(廃棄の減少)やパン製造の種類の見極めが必要になってきます。また、製造量(作業量)が減少している今だからこそ、利用者の作業内容の見直しや今まで取り組めていなかった作業へのスキルアップ等のチャレンジをする機会にもなっています。この機会に力をつけて成長されれば、今後のパン部門(らそら)はさらにおいしく、より良いパンが出来ていくと思います。

ワークでは毎日、利用者も職員も一生懸命に作業に励んでいます。利

用者によつては、自分のペースで作業をされる方、もつと沢山の工賃をもらいたい方、生活の為に頑張つて作業をされている方等、色々な方が働かれています。生産数や販売数が減少しており、「工賃アップ」や「売上アップ」という観点では苦しい状況ではありますが、ワークでは今まで同様に利用者が楽しく生き活きとやりがいを持って通つていただけるように、支援をおこなつていきたいと思つています。このような社会情勢だからこそ、利用者の方にとって居心地が良い恵愛ワークセンターを提供していかなければならないと思つています。

恵愛ワークセンター <2020年度行事予定>

6月	中旬	防災訓練
7月		
8月	29日	日帰り旅行①
9月	26日	日帰り旅行②
10月	3日	日帰り旅行③
	17日	恵愛まつり
	24~25日	サンアピまつり
11月	下旬	防災訓練
12月	18日	クリスマス祝会
1月	9日	新年会
2月		
3月	27日	利用者・家族説明会

*新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、予定を変更する場合があります。

ハーツ

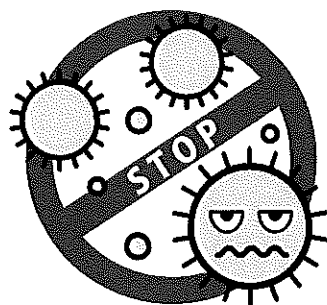
二〇二〇年度の 取り組みについて

所長 古賀 敬之

ヘルパーステーション「ハーツ」

ハーツでは、日頃障がいのある方たちや高齢の方々の在宅生活を支え、その方の尊厳を尊重し、自立に向けた取り組みを行ってまいります。現在は、四月七日に新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が福岡県にも出され、大牟田市でも十八日と十九日に二人の感染が確認されました。その後大牟田市でも、通所事業の自粛が始まるなど戦々恐々とした状況になっています。そうした中でも、ヘルパーは利用者の生活を支えるためにどうしても支援に入らざるを得ない場合があります。一人暮らしや家族の支援が見込めない方の場合で、身体介護等が必要な方の場合など、たとえ多少の熱がある場合でも支援に入る必要がある場合もあります。ハーツでは、登録ヘルパーさん

の平均年齢も高いこともあり、そういうリスクの高い状況では事務所のスタッフで出来る限りの準備をして支援に入ることになっています。もちろん熱がある場合などで、家族の支援が見込める方や、掃除のみの派遣の方など利用を控えてもらう場合もあります。しかし在宅生活を支える最後の砦として、ヘルパー派遣は必要不可欠なものです。支援に入らざるを得ない、基礎疾患や障がいなど重症化リスクが高い方々を対象にしているため、感染リスクとともに感染させてしまうリスクの両方のリスクと闘いながらの支援になるため、精神的にもかなりの負担となっています。障がいのある方や高齢者の方たちの、安心安全な生活とともに支える側の安心安全を取り戻せるよう、少しでも早いコロナの収束を願っています。



〈相談支援「ハーツ」〉

障がいのある方々の何かあった時の緊急ショートステイの受け入れ態勢等を進め安心できる地域生活を支え、また病院や施設からの地域移行をより進めていくための地域生活支援拠点の整備を国が進めており、二〇二〇年度までに全国の市町村や圏域に一方所整備することとされています。そのため大牟田市でも、二〇一八年の十月から「大牟田市自立支援・差別解消支援協議会」の中に「地域生活拠点整備プロジェクト会議」を立ち上げて協議をスタートさせました。大牟田市からの委託の障害者相談支援事業所(四か所)と入所系の事

業所(四法人)と福祉課で九回の協議を重ね、大牟田市ではまだ課題も残るものの一定の地域生活支援拠点の整備はできているとの合意に至りました。大牟田市ではすでに親御さんの急な入院等による緊急のショートステイ等の対応をしてきていたため、数年前に虐待通報ラインに乗せて緊急のショートステイの支給決定が出来るシステムも出来上がっており、入所系の施設の受け入れについての前向きな取り組みも確認できたためです。その後、地域包括支援センターとの連携をさらに深め、制度的な手続きを進め、今年四月から正式に大牟田市の地域生活支援拠点をスタートさせました。

ヘルパーステーション「ハーツ」 (2020年度行事予定)

7月	ヘルパー講習会
8月	ケア輸送運転者認定講習
9月	レクリエーション(ブドウ狩り)
11月	レクリエーション(熊本市動植物園)
2月	ケア輸送運転者認定講習
3月	レクリエーション(水辺プラザ・温泉)

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、予定を変更する場合があります。

障害者生活支援センター「ハーツ」 (2020年度活動予定)

パソコン教室(初級12回・中級6回)予定	
1コース	6月～10月(毎週火曜日18時～20時)
2コース	9月～2月(毎週木曜日14時～16時)

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、予定を変更する場合があります。

障害者就労・自立支援センター

「たんぼぼ」

たんぼぼ就労移行の新しい取り組みのご紹介

就労移行支援責任者 永江 賢

たんぼぼ就労移行及びたんぼぼ大牟田中央サテライトオフィスでは今年度、新たに二つの取り組みを開始しました。今回はそのご紹介をさせていただきます。

一つ目は短期間でのアセスメント(対象者の強みや苦手なこと、必要な合理的配慮などを整理する事)を目的とした「キャリアアセスメント」です。これまで就労移行を利用される方の多くは就労経験が少なく、慎重に適性を図る必要性があったことからアセスメントは半年から一年、長ければ二年と長い期間をかけて行っていました。しかし近年、就労経験が豊富な方の利用ニーズが高まっており、それに伴い短期間での就労をご希望される方のご相談が増えております。そのニーズに対応するために始めたのが「キャリアアセスメント」です。

もちろん長期間でのアセスメントの方が精度は高く、その後の定着も安定することが多いことは事実です。しかし「すぐに働かないと暮らしが成り立たない」という切実な相談が多いことも事実です。中には就職する力が十分にありながらも、自分に合う仕事に出会え

なかつたという方もいらっしゃいます。そのような方には期間が短く、通常の就労移行利用と比較するとアセスメントの精度が低いこのキャリアアセスメントでも、十分にお役に立てるのではないかと考えております。

キャリアアセスメントでは厚生労働省一般職業適性検査の活用やMWS(ワークサンプル幕張版)などのツールを活用することで、その方の適正を客観的に分析・整理することができます。また、企業内での実習もご案内し、希望する職種で実際に働くことによる気づきや現場からの客観的な評価を受けることも可能です。その上で、最終日には今後の就職活動の道筋などをたんぼぼからアドバイスします。キャリアアセスメント自体は1ヶ月という短い期間で終了しますが、そのままたんぼぼやサテライトをご利用することもできるため、キャリアアセスメントによる気づきを訓練の中に活かすことも可能です。

二つ目は「簿記検定講座」です。これまでサテライトオフィスでは「MOS(Microsoft Office Specialist)日本語検定」「ビジネス実務マナー検定講座」など様々な資格取得講座を実施してきました。現在までにのべ三十名以上の方が資格に挑戦され、全員が合格されております。

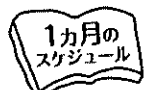
今回新たに追加した「簿記検定講座」は経理を学ぶことができる講座です。誠修高校非常勤講師であり商工会議所主催の簿記検定講座の講師をご担当されている和田章先生を講師としてお招きし、とても実践的な講座を行っていただいております。

簿記を学ぶことは、単に経理としてのスキルを身につけるだけでなく、会社としてのお金の流れや記録の重要さを理解することで、プライベートでの金銭管理を身につけることができるというメリットもあります。

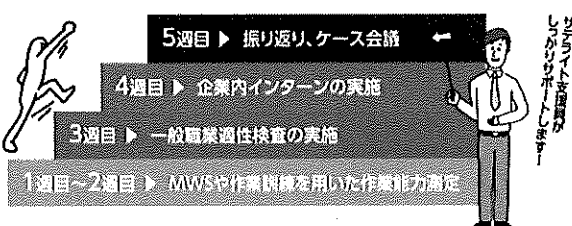
資格は就職する際の武器となることももちろん重要ですが、たんぼぼとして最も重要視しているのは「努力した結果が資格という形として残る」という点です。たんぼぼ・サテライトを利用される多くの方は、過去の失敗体験により学ぶこと自体に苦手意識を持つている方が多くいらっしゃいます。実際には学ぶ力はあるにもかかわらず、失敗体験によつて学ぶことを諦めていらつしやる方が、サテライトの資格取得講座によつて資格をとり、学ぶ楽しさや面白さに改めて気付かれることが何より大事だと感じております。

また現在の新型コロナウイルスによる影響を鑑み、在宅支援の準備も進めています。ビデオ

1ヶ月を通して、どんな仕事か、どんな仕事が好きか、など見つけていきます。



1ヶ月を通して、どんな仕事か、どんな仕事が好きか、など見つけていきます。



障害者就労・自立支援センターたんぼぼ (2020年度行事予定)

Table with 2 columns: Date (6月 to 3月) and Event (レクリエーション, たんぼぼ夏まつり, etc.)

地域交流センターたんぼぼ (2020年度行事予定)

Table with 2 columns: Date (6月 to 3月) and Event (地域道路清掃, たんぼぼ夏まつり, etc.)

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、予定を変更する場合があります。

チャットツールを活用した自宅での講義受講や、自宅であっても十分な就労支援を行うためのツールなどの準備を急ピッチで行っています。これらの取り組みは新型コロナウイルス対策としてだけでなく、これまで就労移行に繋がらなかつた難病や寝たきりの方、さらには引きこもりの方などが就労移行を利用することができるようになるかと考えています。今後またたんぼぼ・サテライト就労移行では様々な「働きたい」というニーズにお答えするため、様々な取り組みを行っていきたくと考えております。

つくしんぼ

二〇二〇年度の 新たな取り組み

事業責任者 中村 留美

昨年度つくしんぼでは、新たな取り組みとして「レクリエーション」を二回行いました。予想以上に利用者みなさんから好評で、「次はいつ？」との声が多く聞かれます。

そこで今年度も何かレクリエーションを行いたいと思い、スタッフの間では以前から要望が出ていた各ホーム毎の「ホームパーティー」、そして確実に盛り上がるであろう「つくしんぼパーベキュー大会」を計画しました。

「ホームパーティー」では、少人数でスタッフと一緒に食事をしながら日頃なかなかできないような話をし、交流を深めるのが目的です。内容も各ホームの入居者の方で話し合っていたら、ホームで「お好み焼きパーティー」「鍋パーティー」や「回転すし・居酒屋に行く」等いろいろな意見が出てきたらいいなと楽しみです。

「パーベキュー」は二〇一六年に「つくしんぼ祭り」として開催したこともあり、みなさんその時の記憶がとて鮮明

で楽しみにされており、アンケートでも一番リクエストが多かったものです。つくしんぼレクリエーションは、利用者みなさんとスタッフの交流と利用者みなさんの余暇を少しでも充実できればとの思いが込められています。いろいろな体験を通して、利用者みなさんの暮らしの幅が広がっていくことを願ってスタッフ全員で盛り上げたいと思います。

また、スタッフのスキルアップのための取り組みも検討しています。一つは世話人の少人数でのミーティングです。今までは全世話人揃っての月一回のミーティングでしたが、それぞれが世話人として勤務するホーム毎のミーティングに変更することで、より細かいことまで情報共有できるのではないかと思っております。世話人の仕事は、一人での動きになるので「このやり方でいいの？」と不安になったり、自己流になってしまったりと表面化しにくい課題が多くあります。それを拾い上げ、改善していくために有意義なミーティングにしたいと思えます。もう一つが、視察研修です。他の事業所が運営しているグループホームを見学に行くことによって、新たな気付きが生まれるのではないかと思います。

これらの取り組みを通して、よりよい「グループホームつくしんぼ」を目指して頑張りたいと思います。

待ちに待った レクリエーション

生活支援員 坂口 清美

二月二十二日(土)二〇一九年度二回目のレクリエーションを行いました。利用者職員合わせて三十五名で、Jボウル行き昼食は、ホテルヴェルデのランチバイキングでした。Jボウルでは、高スコアを出される利用者の方が続出。車椅子の方も道具を使用し楽しそうに投げられています。ゲームには、参加せずに観ておられた方からは、「してみればよかった」と前向きな嬉しい言葉も聞くことが出来ました。

休日の昼食は、お一人で食べられている利用者の方々が多く、皆さんとの食事を楽しみにされていました。バイキング初体験の方もおられ、なかなか席を立たれない場面もありましたが、一緒に食事をしながら、好きなものを自分で取って食べている事をお伝えすると、とても驚かれました。

今回、行く先々でスタッフの方の協力もあり、無事に楽しい時間を過ごすことが出来たと思います。

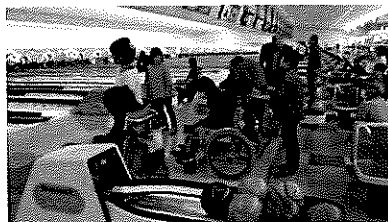
しかし、難しい点もありました。Jボウルでは、レインまでのスロープがなく、男性職員総出で車椅子を抱えて降ろすこととなり、ヴェルデでは、車椅子専用のトイレが少なく遠かったことです。皆さんの笑顔があつて乗り越えたように思います。

つくしんぼ〈2020年度行事予定〉

7月		防災訓練・消防設備点検
	17(金)	ホームパーティー③(浜田)
8月	21(金)	レクリエーション(パーベキュー)
9月	25(金)	ホームパーティー④(末広)
	17(土)	恵愛まつり
10月	24(土)~25(日)	サンアピまつり
11月	20(金)	ホームパーティー⑤(勝立)
12月	18(金)	クリスマス祝会
1月		ホームパーティー⑥(宮原)
2月	26(金)	ホームパーティー⑦(小浜II)
	27(土)	利用者家族説明会(恵・ワ・た)
3月		防災訓練・消防設備点検

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、予定を変更する場合があります。

皆さんと過ごす中で改めて感じた事は、やはり休日の充実です。外出の機会が少ない方が多くおられ、日頃衣服などにされない方が、新しい服や靴を「今日は、お出かけ」と、嬉しそうに見せて下さいました。これからも入居されている方々の言葉を多く引き出せるようにし、考えや思いに耳を傾け、お一人お一人が明るく元気に生活出来るグループホームにしていきたいと思っております。今後も利用者の皆さんの意見を参考にし、喜んで頂けるレクリエーションを企画していきたいと思っております。



ご協力ありがとうございました

■寄付金(一般、建設募金、友の会)

西南学院高等学校母の会、青野太潮・詔子、青山、赤塚バプテスト教会、朝枝育美、天城献金箱、天城年次総会時募金、天の原校区まちづくり協議会、有明キリスト教会、飯田純子、諫早キリスト教会、伊集院幼稚園、友永医院、岩野初子、岩本留理子、嬉野キリスト教会、大久保隆生、太田勝利、大牟田バプテスト教会、大牟田フレンドシップキリスト教会、大村古賀島キリスト教会、甲斐秀樹、金沢めぐみ幼稚園、弥生幼稚園、鹿兒島キリスト教会、梶原せつ子、片山康雄、加藤猛、叶義文、叶郷子、亀井川政子、嘉屋陽子、企救バプテスト教会、木原慶徳、くずめよし、黒水斐子、港南めぐみキリスト教会、古賀敬之、古賀香織、古賀摩理子、古賀バプテスト教会、國分美知子、小嶋たみ、小富士園、小宮田鶴子、境美智子、品川バプテスト教会、清水孜、セルプちくほ、(社福)バプテストめぐみ会 北白川いずみ保育園、(社福)福岡コロニー あけほの園、城野信介、勝呂裕康、聖学院小学校 P.T.A 宗教部、生活支援センター こすもす 所長 谷口 秀明、西南女学院中学校・高等学校、西南学院

中学校、西南学院バプテスト教会、西南女学院、西南幼稚園、瀬戸口早苗、只松英男、田辺貴美子、谷山恵一、谷山雅子、千葉バプテスト教会、塚本二作、堤嘉宏・典子、東京北キリスト教会、徳永浩子、鳥栖キリスト教会、富重忠行、富野バプテスト教会、ナオミ愛児園、中島靖、永野はるみ、永野紘行、中村直人、ナゴミグレースチャーチ、日本キリスト教会 久留米教会、日本バプテスト 春日原キリスト教会、日本バプテスト 小倉キリスト教会、日本バプテスト 伊集院キリスト教会、日本バプテスト 大阪教会、日本バプテスト女性連合、日本バプテスト 仙台基督教會、日本バプテスト連盟、バプテスト 東福岡教会、東熊本キリスト教会、東福岡幼稚園、光の子幼稚園、平尾バプテスト教会、広島西キリスト教会、古瀬ヒデ子、ヘアサロントakese、防府バプテスト教会、三島バプテスト教会、溝越龍太郎、南名古屋キリスト教会、宮崎キリスト教会 女性会、茗荷谷キリスト教会、宗広一美、山本敏彦、山本弘夫、洋光台キリスト教会、吉田スミ子、若松バプテスト教会、(株)西日本医療センター、高橋金男、NPO 法人 W I N G 福岡

二〇一九年十月十六日

二〇二〇年三月三十一日

※順不同敬称略

献金申込送金先
社会福祉法人 キリスト者奉仕会

〒836-0895 福岡県大牟田市新勝立町3丁目5番地15
大牟田恵愛園 0944-51-8750

《銀行振込》 福岡銀行 大牟田支店 普通 2512469
《郵便振込》 郵便振替 01780-3-38380

※この献金は福祉事業活動のために活用させていただきます。 ※郵便振込用紙を入れていただきますので、献金される方はご利用下さい。

恵愛友の会会員募集!!

「障害者福祉」の益々の充実を願いつつ、ともに歩み支えていただける会員を募集しております。

※一人でも多くの人に会員になっていただきたいと願っております。どうぞよろしくお願ひ致します。

一般会員	一口	500円/月
特別会員	一口	1,000円/月
賛助会員	一口	300円/月
団体会員	一口	10,000円/月